

総合土木

水産土木

キャリア

新人 ♡
新採用
1年目

若手 ♪
技師
2～10年目程度
(20～30代前半)

中堅 ♪
主任
10～15年目程度
(30代中盤～)

サブリーダー ♪
主査
15～20年目程度
(30代後半～)

グループリーダー ♪
主任主査
20～25年目程度
(40代中盤～)

管理監督者 ♪
担当課長～
25年目以降
(40代後半～)

主な配置先：農林水産部漁港漁村課、広域振興局水産部（水産振興センター）等

県職員としての土台づくり。
知識経験をしっかり吸収。

様々な分野を経験。実務
の中核として活躍。

視野を広げながら担当業務
を推進。後輩もフォロー。

幅広い視野で業務を推進。
チームの要として活躍。

チームを引っ張り、県
の政策・施策を立案。

豊富な知識・経験で
組織をマネジメント。

必要な知識・能力・役割

- ・漁港構造物等の調査・設計に関する基礎知識
- ・工事積算に関する基礎知識及び技術
- ・工事施工・安全管理に関する基礎知識
- ・公共土木施設管理に関する基礎知識及び基本的な対応力
- ・公共事業制度に関する知識
- ・関係法令に関する知識
- ・災害対応等に関する基礎知識及び基本的な対応力

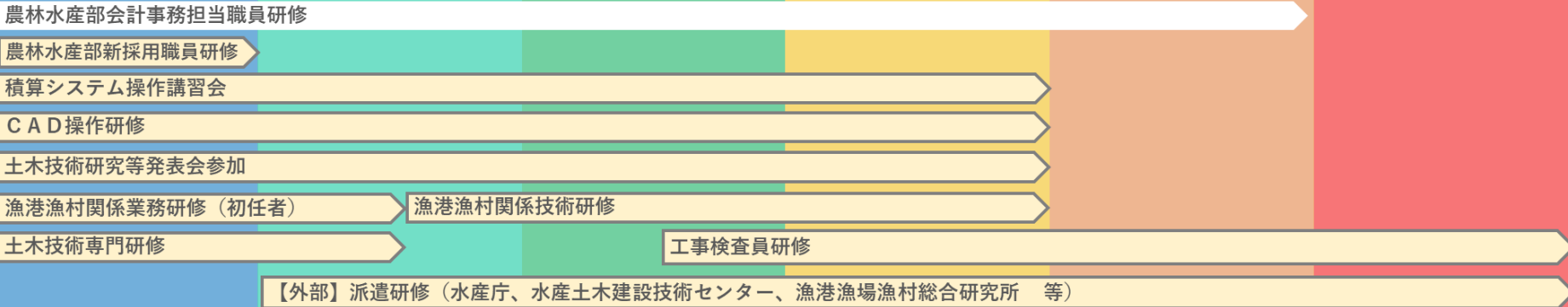
- ・中堅技術者として必要な知識・能力に関する高等・専門知識及び実践的な対応力
- ・工事監督に関する専門的知識
- ・許認可事務に関する技術的事項の審査対応能力

- ・土木技術企画立案力
- ・建設業振興施策に関する知識及び業界団体等との調整能力

- ・管理監督職として所属職員や事務事業をマネジメントする能力
- ・これまでに培ってきた専門分野の知識・経験等を踏まえた高度な能力（説明・交渉・調整力、判断力、指導力、分析力）の発揮
- ・人材育成能力

💡 **若手職員の配置**
実務能力や専門知識、地元合意形成に必要となる説明力・交渉力などを身に付けるため、複数の職場（本庁と広域振興局等）での勤務を経験させるなどバランスの優れた職員を育成。

職員育成（主な研修）



💡 育成方針：職場を離れて受講する研修（Off-JT）に加え、日常の仕事を通じた上司・先輩からの指導（OJT）や自主的な学習・研鑽（自己啓発）を組み合わせる育成

注1：各職位の目安（○年目）は大卒程度を想定したものです。 注2：研修のうち太い枠線のあるもの（着色されているもの）は必修研修であることを表しています。